

生活学習としての教材研究

第1報 小学生の年中行事との関わりの実態より

生活健康系講座
北九州市立鳴水小学校

菊澤 康子
中島由紀子

1. はじめに

わが国の祖先は長い歴史の中で集団生活を営みながら独自の生活文化を発展伝承させてきた。それらの文化の中で、ハレの側面を示す祭りに象徴される伝統的年中行事は、その社会集団が長年培ってきた文化的資産を示すものとして各世代を通じて大切に引き継がれてきた。

近年の急激な工業化の中で、このような年中行事も多様化の波を受けて変貌しつつあることは周知の事実であり、さらに国際化の中で新しく個人的あるいは各家庭毎で行われる新しい年中行事が加わってきたことも事実である。しかし上述のごとくそれら年中行事が持つ文化的資産としての本質には変わりはないといえる。このような文化的に重要な意味を持つ年中行事に対して、平成4年度から小学校生活科にその題材が取り上げられ始めた点は注目に値する。ただその内容は行事の事象としての紹介のみにとどまり、生活文化の視点から行事の持つ意味や行事にこめられた人々の思い、行事を媒介として人と人との交わりの持つ意味など民俗学的内容を教材化しているとは言えない。さらに、家庭科においてはそれを特定した題材は取り上げられていないのが現状である。しかしながら、もともと生活科や家庭科のような生活学習においては、日常生活の中で伝統的、慣習的に営まれてきた事柄や行為のうちから選択した題材において、単に自然科学的に把握と理解を深めるだけではなく、生活文化の創造という視点をふまえながら、その題材を社会的文化的に把握しながら、それらを実生活に実践してこそ真の意義づけがなされるものと言えよう。このような観点に立つとき、生活文化の一つである年中行事は、それを通して余暇時間の充実、家庭や地域の人々との交流に加え、日常生活にけじめやリズムを与え、伝統的生活文化の理解の上にたち、日々の生活の中で新しい生活文化を創造する生活者主体の教育という視点からは、意義ある教材と考えられる。そこで

本研究では、生活文化としての年中行事の教材化を考えるにあたって、まず子どもと年中行事の関わりの実態を把握することにより、生活学習の一環としての基礎的資料を得ることを目的とした。

2. 方法

年中行事は伝統的には信仰的要素及び集団全体が参加する機動的要素を含むとの定義もあるが、その本質としては、常の仕事を休んで行う特別な生活様式があり、古典的な様式を繰り返すことによって、ある精神的安定感を得るといふいわば生活にアクセントをつける意味がある。その意味に焦点を合わせるなら行事の実施主体を問う必要もないことから実施主体にはこだわらず、全国的に行われている可能性が高いと考えられる以下にあげる24の行事を取り上げ、集合法によるアンケート調査を実施した。

(1)伝統的家庭行事の中から「正月」「節分」「ひな祭り」「春の彼岸・墓参り」「子供の日」「七夕」「お盆」「秋の彼岸・墓参り」「月見」「七五三」「大晦日」の11の行事

(2)伝統的地域行事の中から「どんど焼き」「盆踊り」「夏祭り(花火大会を含む)」「秋祭り」の4行事

(3)家族の行事の中から「母の日」「父の日」「敬老の日」「自分の誕生日」「家族の誕生日」「法事」の6行事

(4)外国から入ってきたり近年普及した新しい行事の中から「クリスマス」「バレンタインデー」「ホワイトデー」の3行事

調査対象者には、筆者の一人が教職の場としている地区で結果を活かすことを年頭に置いて、表1に示すように北九州市二地区の小学校の2、4、6年生の470人と、2年生の保護者151人を選定し、1992年12月から1993年1月末にかけて調査を実施した。

調査内容としては、先述の年中行事について、小学生の記憶に残っている実態を調べるとともに行事に対する思い出やニーズについても回答を求めた。

3. 結果および考察

3.1 年中行事の認知度

本研究にて選択した24の年中行事につき年齢的に認知能力が低いと考えられる小学2年生を除き、各行事について知っていたかどうかという設問にして回

表1 調査対象

対象校	学年	配布数	有効回答数(%)
北九州立 N小学校 (市街地)	2年	54	51(94.4)
	4年	73	73(100.0)
	6年	54	52(96.2)
北九州立 E小学校 (市街地)	2年	104	100(96.1)
	4年	91	91(100.0)
	6年	103	103(100.0)

実数 () %

表2 楽しみにしている年中行事

1	クリスマス	324(88.8)
2	自分の誕生日	318(87.6)
3	正月	247(52.6)
4	大晦日	57(12.1)
5	夏祭り	55(11.7)
6	家族の誕生日	
7	子供の日	47(10.0)

実数 () %

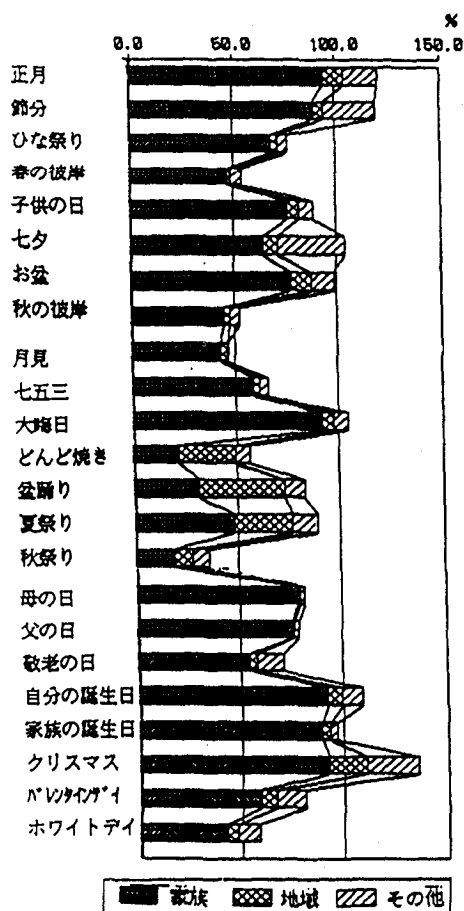


図1 年中行事の実施主体別参加状況

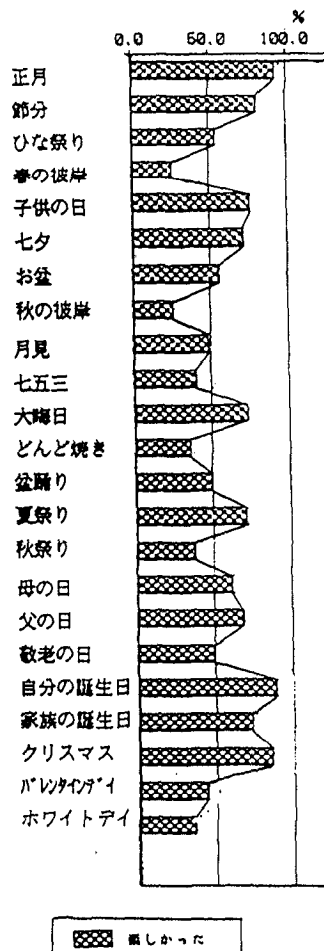


図2 楽しい思い出をもつ年中行事

答を求めた。

一般的に、行事の認知率が8割を超えるものが24行事中18行事を占めて高い。すなわち、伝統的家庭行事では「正月(98.7%)」「節分(96.2%)」「ひな祭り(95.3%)」「子供の日(95.0%)」「七夕(98.1%)」「盆(93.4%)」「七五三(92.8%)」「大晦日(95.3%)」が、伝統的地域行事では「盆踊り(87.8%)」「夏祭り(81.5%)」が、家族の行事では「母の日(94.7%)」「父の日(94.0%)」「敬老の日(90.9%)」「自分の誕生日(98.1%)」「家族の誕生日(90.0%)」が、新しい行事では「クリスマス(96.5%)」「バレンタインデー(92.5%)」「ホワイトデー(90.6%)」がこれに該当する。これに対して、「春秋の彼岸(春49.8%、秋48.0%)」「どんど焼き(69.6%)」「秋祭り(51.7%)」「法事(51.1%)」は認知率が低い傾向にある。

この理由としては対象者が都市居住の核家族世帯に属するものが多く、毎年彼岸に祖先の墓参りをする習慣をもつ者が少ないこと、たとえ親達は墓参りをして必ずしも子供と一緒に行動するとは限らないことなどが考えられる。また「秋祭り」については、「夏祭り」ほどには一般化されていないことも考えられる。

3. 2 年中行事への参加状況

子どもの年中行事への参加状況を把握するにあたり、その実施主体と子どもの参加の場に関連して、「家庭」「地域」「その他(趣味、スポーツ活動の仲間、友人の家、学校等)」の3種類に分け、各行事毎に子どもがどの実施主体の行事に参加したかを記入させた。なお、小学2年生のみはその保護者に記入してもらったものを回答に加算してある。この結果を各実施主体毎に参加率を算出したものを累積した割合を図1に示した。

(1)伝統的家庭行事に関して、3つの実施主体のいずれかに参加している者の合計が100%以上の行事は「正月」「節分」「七夕」「大晦日」の4行事であり、80%以上が参加しているものが「子供の日」および「お盆」である。

一方、「ひな祭り」については77%弱とやや参加者が少なく、「彼岸(春秋とも)」「月見」「七五三」の実施率も8割に満たない。

(2)伝統的地域行事に関して、参加率が80%を越えて高いのは「盆踊り」と「夏祭り」である。これらに比べ、「秋祭り」「どんど焼き」は参加率がかなり低い。これは近年の都市化、多忙社会を反映してか、地域行事の衰退を物語っているとも考えられるが、一方では比較的参加率の高い行事は

夏休み中に行われているものであることがわかる。

- (3)家庭の行事に関しては、「自分の誕生日」が100%以上の参加率で最も高く、ついで「家族の誕生日」「母の日」「父の日」が75%以上、さらに「敬老の日」と続いている。「法事」のみは60%未満と参加率が低い、これは必ずしも毎年行われる年中行事とは異なることと、核家族の場合はその家族内で法事が行われることが少ないことによるものと推測される。
- (4)新しい行事に関しては、「クリスマス」が130%以上、「バレンタインデー」が80%以上と参加率が高い。

一方、「ホワイトデー」は60%程度と比較的低い実施率となっている。しかしこの3つの行事はいずれも由来等とは関係なく、近年商業戦略に乗せられた形で急速に普及してきたものと言える。

3.3 年中行事に対する評価

年中行事に対する評価としては「その年中行事は楽しい思い出として残っているか」「その年中行事が来るのを楽しみにしているか」の設問に対する回答による考察を以下に試みる。

1)楽しい思い出としての年中行事

調査の結果を図2に示す。小学生で楽しかったと回答している率が多いのは、90%以上が「正月」、80%以上が「自分の誕生日」「クリスマス」「節分」となり、以下「子供の日」「家族の誕生日」「夏祭り」と続いている。すなわち伝統的家庭行事では「正月」「節分」「夏祭り」「子供の日」であり、家族の行事では「自分の誕生日」「家族の誕生日」、新しい行事では「クリスマス」となっており、前述の参加率の場合とほぼ類似している。

2)楽しみにしている年中行事

各対象者に対して楽しみにしている年中行事を3つのみ記述してもらった結果を回答者数に対する割合で示し多い順に並べたもののうち10%以上のものを表2に示す。

楽しみにしている行事で上位を占めるのは、第1位「クリスマス」、第2位「自分の誕生日」、第3位「正月」とこの3つに回答が集中している。なお4位以下については「夏祭り」22.7%、「子供の日」10.0%、「バレンタインデー」22.7%と続いている。

3.4 主な年中行事と人との交流の実態

1)正月

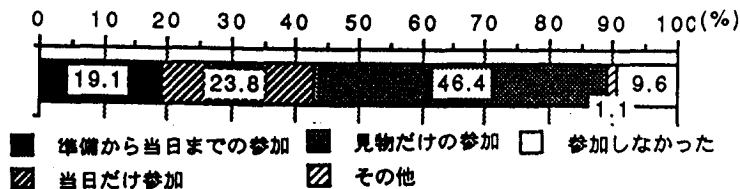


図3 祭りへの参加状況

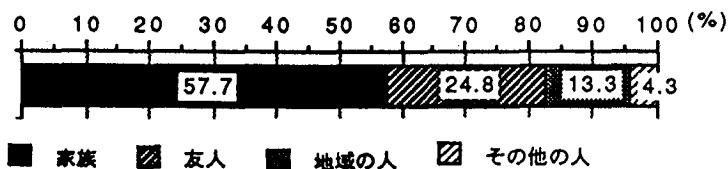


図4 一緒に祭りを楽しんだ相手

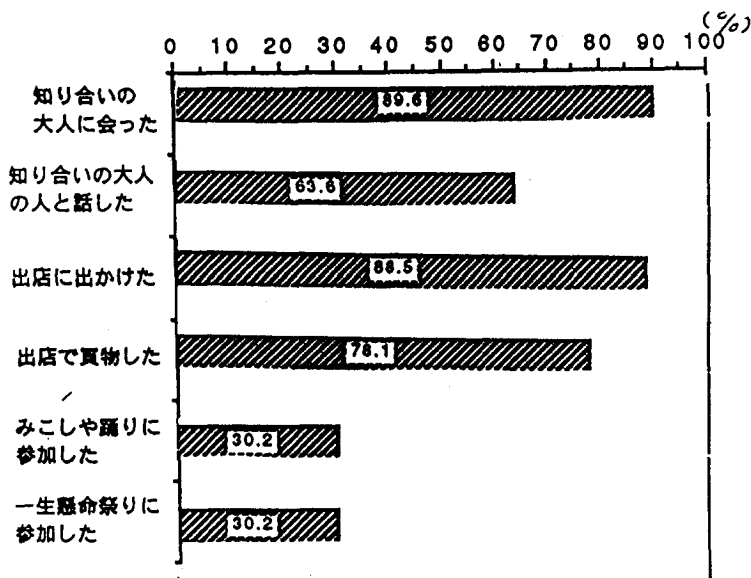


図5 祭りでの具体的行為

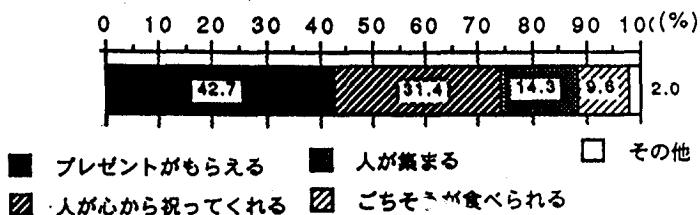


図6 楽しみにしている理由

小学生が調査当時の正月(1993年)に過ごした場所については、自宅のみ171(36.8%)、親戚の家165(35.1%)、自宅及び親戚の家90(19.1%)、旅行とよその家22(4.7%)、自宅とよその家21(4.5%)であり、親戚を訪問している者が255(54.3%)と過半数を占めた。

つぎに交流相手については家族だけ90(19.1%)、家族と親戚321(68.3%)、家族と親戚とよその人58(12.3%)であり、親戚と交流している者は379(80.6%)を占め、これらの結果から正月が親戚との交流の貴重な機会であることが読み取れる。

2)夏祭り

祭りへの参加状況、人との交流状況、祭りを通して行った行為について調査を行った。図3に祭りへの参加状況の調査結果を示す。祭りの場合は祭りのイベントに対しその準備や本人自体祭りの担い手になるような積極的参加をする場合と見物等の消極的参加をする場合があるが、積極的参加の割合がきわめて少ないことがわかる。

次に一緒に祭りを楽しむ相手についての調査結果を図4に示す。祭りの場合、交流相手は家族、地域の人、友人に大別されることは当然予測されるが、この図より小学生の場合、交流は家族中心である実態が明らかに認められる。

図5には祭りを通して行った行為についての調査結果を示す。祭りへの積極的参加がかなり少ないことがわかる。

3)自分の誕生日

誕生日を楽しみにしている理由について調べた結果を図6に示す。プレゼントがもらえるというのが第1位となっているが、実際にプレゼントをもらったかどうかについては89.1%がもらったと答えている。

プレゼントをもらった相手についての複数回答を図7に示す。この結果から現在の小学生の場合はプレゼントについても家族中心指向となっていることが認められる。

4)クリスマス

クリスマスを行なった場所及び相手についての調査結果を図8及び図9に示す。自宅で家族とパーティを持つのが主流になっているのが図9より明らかに読み取れる。また、クリスマスの意義についての調査結果を図10に示すが、図9を反映して、「家族と楽しむ」が最も多くなっている。

クリスマスプレゼントの交換についての調査結果を図11に示す。家族中心の

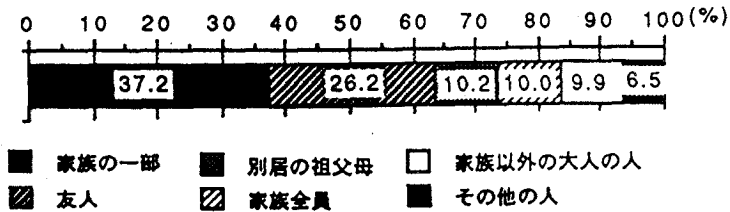


図7 プレゼントをもらった相手

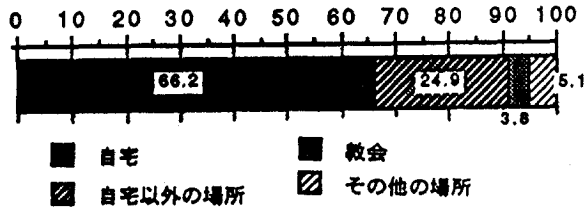


図8 クリスマスを行った場所

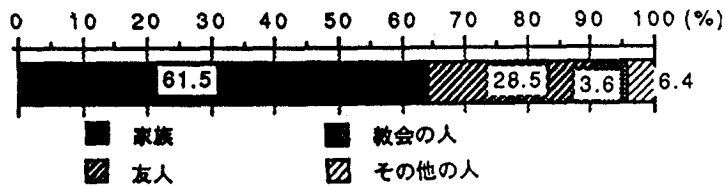


図9 クリスマスを一緒に行った相手

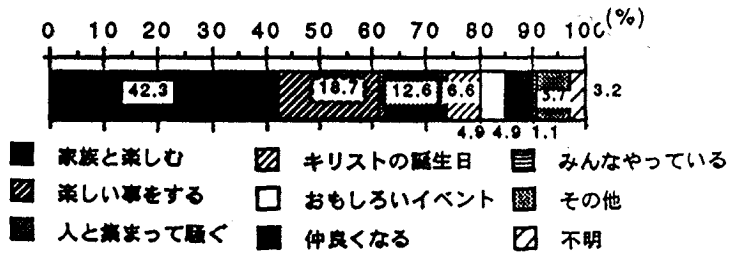


図10 クリスマスに対する意義

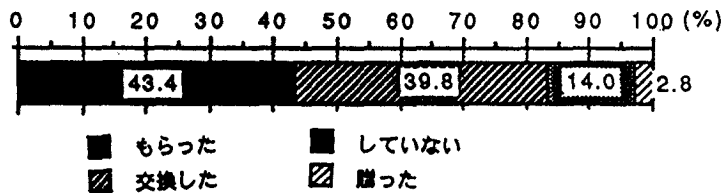


図11 プレゼント行為

クリスマス場合は小学生が家族全員または一部の人からプレゼントを一方的にもらうことは十分に考えられるから図11はクリスマスの家族中心化傾向を示したものととも考えられる。

4. 結論

年中行事の教材化のための基礎資料を得ることを目的として、現在の小学生の状況を調査することにより、次の知見を得た。

- (1)全国的に行われている可能性が高いと考えられる年中行事24項目について評価の高いのは、「正月」「自分の誕生日」「クリスマス」であることがわかった。
- (2)人との交流という視点から年中行事を見た場合、「正月」は親戚と交流を持つ貴重な機会を提供していること、及び「夏祭り」「誕生日」「クリスマス」について、小学生では家族との交流が主流になっているという点が把握できた。この点では年中行事家庭という劇場の出し物として新しく意味づける試みは注目に値する。

以上の知見から、年中行事といえども時代につれて社会状況の変動の影響を顕著に受けていることに鑑み、昔から続いている行事であり対象者にとってもずばぬけて評価の高い「正月」についてさらに追求すべきであるとの示唆を得た。

5. 参考資料

- 1)「生活1年」教科書及び指導書 新興出版社啓林館1992
- 2)「生活2年」教科書及び指導書 新興出版社啓林館1992
- 3)「たのしい生活1年」教科書及び指導書 大日本図書1992
- 4)「たのしい生活2年」教科書及び指導書 大日図書1992
- 5)「新しい生活1年」教科書及び指導書 東京書籍1992
- 6)「新しい生活2年」教科書及び指導書 東京書籍1992
- 7)「せいかつか なかよし1年」教科書及び指導書 教育出版
1992
- 8)「せいかつか なかよし2年」教科書及び指導書 教育出版1992
- 9)「せいかつ1」教科書及び指導書 光村図書1992
- 10)「せいかつ2」教科書及び指導書 光村図書1992

- 11) 「せいかつ1 あおぞら」教科書及び指導書 信農教育出版1992
- 12) 「せいかつ2 そよかぜ」教科書及び指導書 信農教育出版1992
- 13) 「わたしたちの生活2年」教科書及び指導日本書籍1992
- 14) 「しょうがくせい生活科1」教科書及び指導書 中教出版1992
- 15) 「しょうがくせい生活科2」教科書及び指導書 中教出版1992
- 16) 「わたしたちのせいかつ1」教科書及び指導書 大阪書籍1992
- 17) 「わたしたちのせいかつ2」教科書及び指導書 大阪書籍1992
- 18) 「小学校生活1」教科書及び指導書 学校図書1992
- 19) 「小学校生活2」教科書及び指導書 学校図書1992
- 20) 「みんなのせいかつ1」教科書及び指導書 学習研究社1992
- 21) 「みんなのせいかつ2」教科書及び指導書 学習研究社1992

6. 参考文献

- 1) 西角井正慶編「年中行事辞典」(株)東京堂出版1992.1(第35判)
- 2) 井上忠司, サントリー-不易流行研究所「現代家庭の年中行事」
講談社1993.12
- 3) 文部省「学習指導書 生活編」教育出版1989
- 4) 文部省「学習指導書 家庭編」開隆堂出版1989